

設問別調査結果 [中学校国語A:主として知識]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4		86.8
	書くこと	3		64.6
	読むこと	10		75.7
	言語事項	17		76.0
問題形式	選択式	19		76.0
	短答式	14		78.4
	記述式	0		

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			問題形式			札幌市		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	全国との比較	無解答率(%)	正答率(%)
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 … + 3.1ポイント以上 … + 0.1ポイント～3.0ポイント … ほぼ同程度 … - 0.1ポイント～ - 3.0ポイント … - 3.1ポイント以下												
1ー	主語に合わせて述語の部分を正しく書き直す	主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書く								4.9	49.8	5.6
2ー	スピーチの工夫の効果として適切なものを選択する	効果的なスピーチをするために話し方の工夫をする								0.3	75.8	0.4
2二	スピーチの特徴の説明として適切なものを選択する	効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫する								0.3	88.1	0.4
3ー	物語の展開の順番どおりに出来事を並び替える	本文の展開に即して内容をとらえる								0.5	89.5	0.5
3二	僕とカムパネルラが知っていることの説明として適切なものを選択する	本文の表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読み取る								0.9	85.2	1.2
3三	先生の質問に答えなかったカムパネルラが、僕のことをどう思っていると考えたかが書かれている部分を本文中から抜き出す									10.0	84.1	10.7
4ー	先生の話から必要な情報を聞き取り、メモをとる	話の内容から必要な情報を的確に聞き取る								0.7	92.7	0.9
4二	足りない情報を得るための質問として適切なものを選択する	聞いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問する								0.5	90.9	0.6
5ー	提案するときに根拠にする意見として適切なものを選択する	自分の意見を伝えるために、適切な材料を選ぶ								0.6	75.2	0.6
5二	提案するときにある意見を取り上げて書く理由として適切なものを選択する	自分とは異なる立場の意見を取り入れて、説得力のある文章を書く								0.8	68.7	0.9
6ー	目次の特徴とそれを使ってできることの説明として適切なものを選択する	目次の特徴や役割を理解する								0.5	85.4	0.6
6二	調べたい事柄が書かれている章を選択する	目次を読んで、必要な情報がどこにあるか見当を付ける								0.5	81.2	0.6
7ー	短歌について、言葉のつながりや意味の上から切れめを付けたものとして適切なものを選択する	短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむ								0.7	28.9	0.8
7二	短歌について書かれた文章の空欄に当てはまるものとして適切なものを選択する	語句の意味を理解する								0.7	83.6	0.9
7三	短歌の内容について適切なものを選択する	表現の仕方に注意して読み、内容について理解する								0.8	77.9	1.0
8ー1	漢字を書く(世界イザンを見学する)	文脈に即して漢字を正しく書く								8.0	75.2	8.2
8ー2	漢字を書く(ジシャクを使って方位を調べる)									5.2	84.0	6.3
8ー3	漢字を書く(燃料をオギナウ)									25.5	53.7	22.6

【設問一】効果的なスピーチをするために話し方の工夫をすること

- ・スピーチの工夫の効果として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫すること

- ・スピーチの特徴の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりすること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている結果となった。

スピーチの指導をする際には、聞き手の反応を意識して話すようにさせたり、聞き手の関心を高めたり理解を助けたりするための具体的な方法やその効果について考えさせる指導が必要である。材料を収集する方法や収集した材料の効果的な組み合わせ方等について検討し、聞き手を意識してどのように話すかなど、スピーチの内容や構成、仕方等について考えさせる指導が必要である。なお、原稿に頼らず、聞き手の反応を見ながら話すことについて指導することも重要である。

3 文学的な文章を読む

③は、文学的な文章を読む際に、登場人物の言動、場面の展開、主人公の内面を描写している部分などに注意して読み、内容を正確に理解できるかどうかをみる設問である。設問一では、本文の展開に即して内容をとらえることができるかどうかについて、設問二と設問三では、本文の表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読み取ることができるかどうかについて、設問一と設問三は短答式で、設問二は選択式で問われている。

【設問一】本文の展開に即して内容をとらえること

- ・物語の展開の順番どおりに出来事を並び替える設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っているが、正答率が高い。

【設問二】本文の表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読み取ること

- ・登場人物（僕とカムパネルラ）が知っていることの説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】本文の表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読み取ること

- ・登場人物（先生）の質問に答えなかった登場人物（カムパネルラ）が、僕（ジョバンニ）のことをどう思っていると考えたかが書かれている部分を本文中から抜き出す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること」については、全国の平均正答率をやや下回っているが、正答率が高い結果であった。また、「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回る結果となった。文学的な文章を読む際には、主人公をはじめとする様々な登場人物の言動や心情に着目させたり、展開や場面の状況を整理しながら読み進めたりする必要がある。また、内容を正確に読み取らせるためには、繰り返し出てくる語句や指示語、副詞、文末表現などに着目させることが大切である。これらの表現に着目することにより、登場人物の言動や心情、思考の変化などについて丁寧な読み取りが可能となる。今後とも、文章の展開に即して内容をとらえながら、登場人物の心情等に触れる学習や、表現の仕方や文章の特徴の良さについて学習を積み重ねる必要がある。読むことの楽しさを理解することにより、日常生活における読書活動の充実につなげていく指導も大切である。

4 連絡の内容をメモする

④は、話を聞いてメモを取る際に、必要な情報を的確に聞き取る力が身に付いているか、また情報が不足している場合に必要に応じて適切に質問することができるかどうかをみる設問である。設問一では、話の内容から必要な情報を的確に聞き取ることができるかどうかについて、設問二では、聞いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問することができるかどうかについて、設問一は短答式で、設問二は選択式で問われている。

【設問一】話の内容から必要な情報を的確に聞き取ること

- ・先生の話から必要な情報を聞き取り、メモを取る設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っているが、正答率が高い。

【設問二】聞いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問すること

- ・足りない情報を得るための質問として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて、話したり聞き取ったりすること」については、全国の平均正答率をやや下回ったが正答率が高い結果となった。今後も、実際の生活場面を意識した学習活動となるよう工夫して設定したり、目的や場面に応じて、情報が不足している場合には必要に応じて意図を明確にした質問をしたりすることも含め、大切なことを聞き漏らさないように注意深く聞く指導の充実が大切である。

5 提案する文章を書く

⑤は、自分の意見が相手に的確に伝わるように、適切な材料を根拠とし、自分とは異なる立場の意見も取り入れながら書く力をみる設問である。設問一では、自分の意見を伝えるために、適切な材料を選ぶことができるかについて、設問二では、自分とは異なる立場の意見を取り入れて、説得力のある文章を書くことができるかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】自分の意見を伝えるために、適切な材料を選ぶこと

- ・提案するときに根拠にする意見として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】自分とは異なる立場の意見を取り入れて、説得力のある文章を書くこと

- ・提案するときにある意見を取り上げて書く理由として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「書くこと」領域における「自分の考えや気持ちを的確に表すために、適切な材料を選ぶこと《選材》」及び「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと《記述》」については、それぞれ全国の平均正答率をやや上回る結果となった。提案する文章を書く際には、様々な立場からの意見を想定しながら提案する内容を検討していく必要がある。自分の意見に説得力をもたせるために明確な根拠を記述したり、自分とは異なる立場の意見や根拠にも十分考慮したりしながら、自らの意見を構築していく必要がある。ある考えを提案する際には、その後に議論する場があることを前提として学習計画を組んでいくことも重要である。

6 目次を読む

⑥は、本の目次の特徴を理解し、目的に応じて必要な情報を集めるための読み方ができるかをみる設問である。設問一では、目次の特徴や役割を理解できるかについて、設問二では、目次を読んで、必要な情報がどこにあるか見当を付けることができるかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】目次の特徴や役割を理解すること

- ・目次の特徴とそれを使ってできることの説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】目次を読んで、必要な情報がどこにあるか見当を付けること

- ・調べたい事柄が書かれている章を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における「様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること《情報の活用》」については、全国の平均正答率をやや上回る結果となり、正答率も高かった。目次は読みたい箇所を探すためだけでなく、本そのものを選ぶための手がかりにもなる。書物には本文や目次以外にも、タイトルや索引、奥付等があり、これらの機能を理解し必要に応じて活用する学習活動を展開することも考えられる。目次を手がかりにして、様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりすることにも役立てることも可能となる。

7 短歌を読む

【7】は、短歌を読む上での基本的な知識について身に付けているかをみる設問である。設問一では、短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむことについて、設問二では、語句の意味を理解することができるかについて、設問三では、表現の仕方に注意して読み、内容について理解することができるかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと

- ・短歌について、言葉のつながりや意味の上から切れめを付けたものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っているが、正答率は低い。

【設問二】語句の意味を理解すること

- ・短歌について書かれた文章の空欄に当てはまるものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】表現の仕方に注意して読み、内容について理解すること

- ・短歌の内容について適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること《内容把握や要約》」については、全国の平均正答率を上回る結果となったが、正答率は低かった。また、「文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること《語句の意味や用法》」についてと「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと《表現の仕方》」については、全国の平均正答率をやや上回る結果となった。短歌を読む際には、言葉のつながりや意味のまとまりの点から、句の切れめをとらえることで作品の基本的な構造を把握することができる。また、詠嘆の表現である「けり」等の切れ字に着目することで、作者の感動のありようなどについて考えを深めることも可能となる。このように、短歌や俳句を読む上では、作品に用いられている一つ一つの語句に十分注意を払いながら読む学習活動の充実が大切である。

8 言語事項等

【8】は、語句や語彙、言葉のきまり、言語生活、伝統的な言語文化、漢字の読み書き、書写に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付けているかどうかをみる設問である。漢字の読み書きについての六つの設問、文脈を考えながら適切な語句を選択する六つの設問、文意を変えずに受け身の形に書き直す設問、古文に関する二つの設問、書写に関する設問、国語辞典の活用に関する二つの設問で構成されている。

【設問一】文脈に即して漢字を正しく書くこと

- 1 「遺産」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- 2 「磁石」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- 3 「補(う)」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。

【設問二】文脈に即して漢字を正しく読むこと

- 1 「抵抗」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- 2 「伴奏」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- 3 「迫る」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

- ア 適切な語句(「もどかしい」)を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- イ 適切な語句(「ならわし」)を選択する設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- ウ 適切な敬語(「おめしになって」)を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- エ 適切な同音異義語(「機関」)を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- オ 適切な接続詞(「そうであっても」)を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- カ 適切な同音異義語(「辞」)を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問四】動作の受け手を主語にした受け身の文に書き換えること

- ・意味は変えずに、主語を変えて書き換える設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問五】古文の仮名遣いや古文と現代語訳とを対応させること

- 1 歴史的仮名遣い(「むかひて」)を現代仮名遣いに直す設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- 2 「徒然草」の中の語句(「よしなしごと」)の訳を抜き出す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問六】行書の基本的な書き方を理解し、配列・配置に気を付けて書くこと

- ・先生の助言を生かして書き直したものを選択する設問では、全国の平均正答率と同程度である。

【設問七】辞書を活用して、語句の意味を適切に書くこと

- ・国語辞典で調べたことをもとに、語句の意味(「善後策を講じる」)を書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問八】辞書に書かれている情報を適切に読み取ること

- ・国語辞典の説明から分かることを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「言語事項」における「漢字の読み書き」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている状況にあるが、「補(う)」の漢字の書きについては、全国の平均正答率を下回り、正答率も半分以下の結果で無解答率も高かった。今後も、漢字の指導においては、学年別漢字配当表の漢字をはじめ、使用頻度の低いものを意図的に取り上げたり、同じ漢字を用いた他の語句と関連付けたりさせながら、確実に習熟を図るための指導を工夫することが必要である。

「語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うこと」については、全国の平均正答率と比較して、上回るか、やや上回っているものが多かったが、「もどかしい」を選択する設問では、全国の平均正答率をやや下回り、正答率は半分に満たなかった。また、「ならわし」を選択する設問では、全国の平均正答率を下回る結果となった。語句の指導においては、同音異義語や同音(訓)異字、類義語、対義語、多義語、慣用句、接続詞、副詞の呼応に係わる適切な文末用言の使い方などについて日ごろの会話や記述でも意識して使い、難しい言葉を使うことへの抵抗感を減らすよう、普段から様々な語句や表現に慣れ親しませるようにすることが大切である。また、言葉のきまりに関する指導については、知識として理解しているだけでなく、実際の場面で使えるようにすることが必要である。「敬語」については、平成19年度調査において、全国平均正答率と比較して、やや下回っていたが、昨年度、今年度と全国の平均正答率と比較して、やや上回る状況となっており、特に今年度については正答率も高かった。指導の改善が図られていると考えられるが、今後とも相手や場面に応じて、尊敬語と謙譲語を正しく使い分けて意識しながら使えるよう指導を充実させていく必要がある。

「文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えること」については、全国の平均正答率をやや上回る結果となった。日常生活においても、伝えたい内容を変えずに、書き換えたり言い換えたりすることがあることから、自動詞や他動詞の違いや付属語の用法等についての理解を一層深め、実際の場面で使い分けができるように、今後も指導の充実を図っていく必要がある。

「古典に親しむこと」については、全国の平均正答率を3年連続上回っているかやや上回っている結果となった。古典の指導においては、今後とも、本文を繰り返し音読させることで歴史的仮名遣いに慣れさせ、古文ならではの独特のリズムを体感させたり、気に入った表現を暗記させたりしながら古典に親しませる指導の充実が必要である。

毛筆を使った書写の指導における「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書く」ことについては、全国の平均正答率と同程度であった。毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うことにつながるもので、「文字を正しく整えて速く書く」力を培うものであることを意識しながら指導の充実を図っていく必要がある。併せて、文字の配列や配置の指導においては、「読みやすく書く」ということを、より意識させる必要がある。文字を書く目的や場面に応じて、適切な文字の大きさや配列・配置などを考えながら書く指導を行う必要がある。

言語事項の力は、他の3領域の力を支えるために必要な力であるため、その充実を図ることは国語科指導において重要なポイントとなる。国語辞典の活用については、全国の平均正答率を上回るか、やや上回る結果であったが、今後とも、国語の授業において国語辞典等を有効に活用していく工夫が必要である。

設問別調査結果 [中学校国語B:主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0		
	書くこと	5		72.5
	読むこと	11		74.5
	言語事項	0		
問題形式	選択式	3		70.2
	短答式	3		82.0
	記述式	5		72.5

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			問題形式			札幌市		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	全国との比較	無解答率(%)	正答率(%)
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 … + 3.1ポイント以上 … + 0.1ポイント～3.0ポイント … ほぼ同程度 … - 0.1ポイント～ - 3.0ポイント … - 3.1ポイント以下												
1-アイ	子ども図書館案内図を見て、特定の本を借りるために行くべき場所を選択し、その場所に行く理由を書く	書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明する								1.0	79.6	0.9
1-ニ	子ども図書館案内図にみられる工夫として当てはまらないものを選択する	表現の仕方や文章の特徴をとらえる								0.6	72.8	0.6
1-三ア	子ども図書館案内図の工夫を生かして、学校図書館の案内図の郷土資料コーナーの見出しを書く	資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる								6.9	59.1	7.1
1-三イ	子ども図書館案内図の工夫を生かして、学校図書館の案内図の受付カウンター役割の説明文を書く	資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる								6.6	76.6	6.8
2-一	本文の第一段落の役割について述べたものとして適切なものを選択する	文章の展開をとらえ、段落の役割を理解する								0.6	72.1	0.7
2-二	本文の内容を適切にとらえ、発光ダイオードの特徴を箇条書きで三つ以上書く	文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書く								11.8	66.4	13.1
2-三	資料の図が、文章のどの部分を補足しているかについて、文章中から抜き出す	文章と補助資料とのかかわりを理解する								16.2	64.0	17.8
3-A	表に当てはまる一行を詩の中から抜き出す	語句に注意し、その効果的な使い方に気付く								4.1	91.4	4.6
3-B										4.2	90.6	4.6
3-二	ひとまとまりのものとしてとらえた複数の連の内容について適切なものを選択する	詩の表現の仕方に注意して内容をとらえる								1.0	65.7	1.2
3-三	詩と組み合わせる写真を一枚選び、その写真と組み合わせる理由を詩と写真を関連付けて書く	詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書く								4.4	80.8	4.3

【設問別分析】

1 情報を読む(図書館の案内図)

①は、案内図から自分に必要な情報を読み取ることで、表現の工夫や特徴に気付いて自分の表現に役立てることができるかどうかをみる設問である。設問一では、書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明することについて、設問二では、表現の仕方や文章の特徴をとらえることについて、設問三では、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てることについて、設問一と設問三は記述式で、設問二は選択式で問われている。

【設問一】書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明すること

- 子ども図書館案内図を見て、特定の本を借りるために行くべき場所を選択し、その場所に行く理由を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】表現の仕方や文章の特徴をとらえること

- ・子ども図書館案内図にみられる工夫として当てはまらないものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問三】資料に表れている工夫を自分の表現に役立てること

- ・子ども図書館案内図の工夫を生かして、学校図書館の案内図の郷土資料コーナーの見出しを書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・子ども図書館案内図の工夫を生かして、学校図書館の案内図の受付カウンターの役割の説明文を書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「書くこと」領域における「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にすること《事柄や意見》」や「読むこと」領域における、「様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること《情報の活用》」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。「読むこと」領域における「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと《表現の仕方》」については、全国の平均正答率を上回っている。「書くこと」領域における「文章の形態に応じて適切な構成を工夫すること《構成》」や「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと《記述》」や「読むこと」領域における「目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること《情報の活用》」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

公立図書館や博物館など、多くの人たちが広く社会生活の中で利用している公の施設にかかわる資料等の中から、自分が必要とする情報を取り出したり読み取ったりして、その情報を活用していく力は日常生活においても必要な力である。資料は、イラストや図、グラフなどを駆使して作成されているものも多く、これらを文字と結び付けながら理解していくことが必要となる。また、資料を読む際には、作り手の意図や目的と表現の工夫との関係について考えることも重要であり、工夫された表現を自分の表現活動に積極的に生かしていくこと姿勢も身に付けさせたい事柄である。

2 情報を整理する（発光ダイオード）

② は、説明的な文章を表現の工夫に注意して読み、必要な情報を整理することができるか、また、補助資料の図を見て、文章の理解を深めることができるかについてみる設問である。設問一は、文章の展開をとらえ、段落の役割を理解することについて、設問二は、文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書くことについて、設問三は、文章と補助資料とのかかわりを理解することについて、設問一は選択式で、設問二は記述式で、設問三は短答式で問われている。

【設問一】文章の展開をとらえ、段落の役割を理解すること

- ・本文の第一段落の役割について述べたものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問二】文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書くこと

- ・本文の内容を適切にとらえ、発光ダイオードの特徴を箇条書きで三つ以上書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問三】文章と補助資料とのかかわりを理解すること

- ・資料の図が、文章のどの部分を補足しているかについて、文章中から抜き出す設問では、全国の平均正答率を上回っているが、他の設問と比較して無解答率が高い傾向にある。

「読むこと」領域における「書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること《構成や展開》」「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること《内容把握や要約》」「目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること《情報の活用》」については、全国の平均正答率を上回っている。また、「書くこと」領域における「伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること《事柄や意見》」についても、全国の平均正答率を上回る結果となった。

今後とも、段落の役割や段落相互の関係を考えながら読むことで論理の展開をとらえたり、複数の補助的な資料を文章と関連付けて読むことによって、情報をより正確に理解したりする指導の充実が求められる。

3 詩を味わう（「樹」）

③ 語句の効果的な使い方に注意して詩の内容をとらえたり、詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえ、写真という性質が異なる作品と関連付けて、自分の考えを書いたりする力をみる設問である。設問一は、語句に注意し、その効果的な使い方に気付くことについて、設問二は、詩の表現の仕方に注意して内容をとらえることについて、設問三は、詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くことについて、設問一は短答式で、設問二は選択式で、設問三は記述式で問われている。

【設問一】語句に注意し、その効果的な使い方に気付くこと

- ・表に当てはまる一行を詩の中から抜き出す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】詩の表現の仕方に注意して内容をとらえること

- ・ひとまとまりのものとしてとらえた複数の連の内容について適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くこと

- ・詩と組み合わせる写真を一枚選び、その写真と組み合わせる理由を詩と写真を関連付けて書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っているが正答率が高い。

「読むこと」領域における「文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること《語句の意味や用法》」や「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと《表現の仕方》」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、「書くこと」領域と関連付けながら「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと《記述》」については、昨年度は全国の平均正答率を上回っていたが、今年度はやや下回る結果となった。ただし、無解答率は減少傾向にある。

詩には、表現上に様々な工夫が施されている。作品中の洗練された語句や表現には、作者のみずみずしい感性溢れる思いが託されていることが多い。また、随所に使われている表現技法には、いろいろな効果があり、詩の魅力に迫ることができる。今後も、詩の授業の中では、気付きを大切にしながら、叙情性や言語感覚を豊かにしていく指導を取り入れていくことが必要である。

また、整理した情報を有効に活用して自分の意見を根拠立てて書くためには、情報を整理する力の他に、情報を正しく認識したり分析したり吟味したりする力が必要となる。表面的には異質の印象を受ける情報であっても、想像力をはたらかせて深く考えとつながってくる情報もあり、様々な情報を関連付けて総合化を図る学習などを積み重ねていく指導も有効である。

国語学習に関する意識結果 【中学校】

質問事項	選択肢			
	当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまら ない	当てはまらない
国語の勉強は好きですか	23.6	37.5	26.8	11.9
国語の勉強は大切だと思いますか	49.4	37.6	9.1	3.6
国語の授業の内容はよく分かりますか	21.4	49.2	23	6.1
読書は好きですか	45	23.5	17.8	13.4
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	35.1	41.8	17.1	5.7
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	9.6	30.3	43	16.9
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	8.7	30.4	43.9	16.7
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	17.5	40.2	31.4	10.5
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか	21.6	41.9	27.1	8.8

（単位は％）

< 設問分析 >

「国語の勉強は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 61.1%となっており、全国平均を 4.4 ポイント上回っている。本設問については、肯定的な回答が、平成 19 年度調査では 57.9%、平成 20 年度調査では 59.8%となっており、少しずつ増加している傾向が見られる。今後とも、生徒の興味・関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。

「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 87.0%となっており、昨年度調査の 86.1%を若干上回る結果となった。全国平均と比較すると 0.6 ポイント低くなっているが、昨年度は 1.2 ポイント低かったことを考慮するならば、生徒の意識の改善が図られてきていると考えられる。今後も学習した内容が生活の中で活用され、生徒に国語の必要性を感じさせるような授業づくりが求められる。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 70.6%となっており、全国平均を 1.8 ポイント上回っている。平成 19 年度は全国平均を 1.7 ポイント下回り、平成 20 年度は 67.3%と全国平均を 0.5 ポイント上回っていた項目であることから、少しずつ分かる授業づくりに向けて工夫改善が図られてきたことがうかがえる。

「読書は好きですか」という質問では、昨年度調査において肯定的に回答した割合が全国平均を 0.3 ポイント下回っていたが、今回、肯定的に回答した割合が 68.5%と、全国平均を 1.1 ポイント上回っている。現在、札幌市では、「読書」を生涯にわたる学びの基盤とおさえてその推進に力を入れているところであり、今後ともあらゆる機会を通じて、読書に親しむ活動を積極的に展開していくことが求められる。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が、76.9%で全国平均を 1.5 ポイント下回っている。平成 19 年度及び平成 20 年度において肯定的に回答した割合は、それぞれ 83.6%、77.9%であったことから、この項目については、肯定的な回答が年々減少している状況である。生徒が国語の学習の有用性を感じることできるような学習指導の展開が求められる。

「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 39.9%で、全国平均を 1.9 ポイント下回っている。昨年度は 40.6%で、全国平均を 2.5 ポイント下回っており、全国平均と比較して、肯定的な回答が少ない傾向が続いている。今後とも、資料を有効に活用して、問題解決を図ったり、根拠を明確にして作品を批評したり意見を述べたりすることに自信を持たせるような指導の工夫が求められる。

「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という質問では、肯定的に回答した割合は 39.1%で、全国平均を 0.2 ポイント下回っている。昨年度は 39.4%で、全国平均を 0.5 ポイント下回っていた。自分の意見が相手（聞き手）に正確に伝わるように心がけることは、日常の言語活動においても大切なことであり、あらゆる機会を通じて良いところを積極的に評価しながら、場面や相手に応じた効果的な話し方を意識する必要性に気付かせる指導の充実が求められる。

「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」という質問では、肯定的に回答した割合は、57.7%で全国平均を 2.6 ポイント上回っている。昨年度は 57.8%で、全国平均より 2.3 ポイント上回っていた。根拠を明確にして書くことは、説得力のある表現につながることであり、今後とも、書くときの心構えとして一層意識化させる指導の充実が望まれる。

「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいますか」という質問では、肯定的に回答した割合は、63.5%で全国平均を 2.8 ポイント上回る結果であった。昨年度は 64.2%で、全国平均より 2.7 ポイント上回っていたことから、この項目についても大きな変化はなかったことが窺える。文章の構成や工夫された表現を、書き手の意図を考えながら読み進めていくことは、同時に中心的な部分と付加的な部分や事実と意見を区別しながら読むことにもつながり、要約する学習にも効果的な読み方であるので、今後とも一層の指導の充実が求められる。